様式3 令和5年度新座市学校評価システム学校運営協議会による評価シート

目指す学校像 (重点目標)	期待の登校、満足の下校 ～「非同期性」の教育活動で一人一人の「体験価値」を高める学校～
------------------	--

学校名	新座市立第二中学校
実施日	令和6年1月11日

<記入の仕方>

- 「自己評価」及び「学校運営協議会による評価」の欄には、S A B Cを記入してください。
- 「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるか特記事項がある場合のみ記載してください。

評価項目「学校独自」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、「個に応じた学力の向上」を目指し、主体的に学習に取り組む生徒を育成するため、ICT機器を積極的に活用し、授業改善に取り組んでいる。	A	・多くの授業でICT活用が日常的になっている。 ・今後はより主体的な学習に結び付けた取組が必要である。	S	・素晴らしい環境であり、他校と比べて自信をもって良い。 ・ICT環境を生かし、どの学級でも授業の展開や生徒の主体的な学習に取り組んでいる様子が窺える。 ・さらに一歩進んだ取組と実績を期待している。
学校は、「豊かな心と健やかな体の育成」を目指し、教育相談、道徳教育、体力課題の解決、健康教育等の推進に取り組んでいる。	A	・学年でのローテーションによる道徳授業や各部会など充実している。 ・相談室利用生徒が多い現状を考えると課題はある。	A	・豊かな心と健やかな体の育成に向けて、組織的な取り組みができています。 ・校内での生徒の様子は、落ち着いてメリハリのある学校生活が送られているように感じる。 ・相談室のあり方に課題を感じる。
学校は、「保護者・地域との連携」を目指し、コミュニティスクールを充実させ、地域・家庭（PTA）・学校が一体となった教育の推進に取り組んでいる。	A	・PTAが一生涯懸命動いてくださる。 ・生徒会とも「学校運営創造ラボ」を創設するなど、地域と学校運営との連携を図る動きが始まり、今後軌道に乗せていく。	S	・学校運営改善の動きが着実に進んでいる。 ・工事関係で活動に制限がある中で、おはなしの雫、水やりを地域の方に実施してもらうなど、地域との連携を進められた。 ・今後も地域学校協働活動の推進を期待する。

評価項目「組織運営」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	A	・組織は整備されているが、役割を担う教職員の負担が偏っている。定期的に情報共有する場を設け、組織を機能的にしていける必要がある。	A	・継続的に運営組織の見直しが行われている。 ・組織が整備されているので、役割の平準化が課題であると感じる。 ・教職員の負担軽減を進めてもらいたい。
学校は、学校経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じてPDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	A	・3学期に本評価結果を踏まえて検討事項を整理し、来年度に向けて見直しをしていく。 ・締切等に余裕をもたせるため、年間を通して見直しをもった学校経営を行う。	S	・PDCAサイクルが機能していることが、生徒・保護者アンケートから窺える。 ・校則の見直しなど、前向きに取り組んでいる。
学校は、事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるように、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	A	・危機管理マニュアルの見直しや非常事態を想定した訓練など、実態に即したものにすることが必要である。特に、長寿命化工事で制限があったり、敷地内に生活道路もあるので、随時検討していく。	A	・修学旅行時の危機管理が的確に行われるなど、組織的に取り組まれている。 ・不審者情報やSNSを使った犯罪・公共施設に爆弾を仕掛けられたなど、新たな犯罪に対応すべくマニュアルの見直しが必要である。 ・工事中だからこの訓練を実施していくべきである。

評価項目「学力向上」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	A	・生徒アンケートの結果より、学習の理解に関する項目で肯定的評価が9割くらいあった。 ・学習ルールについては、時代の変化に伴いながら、随時見直しをしていく。	S	・授業が分かりやすく工夫されているので、生徒の理解を深めることができている。落ち着いて学習に取り組む、ICTもよく活用され、学力向上につながっているように感じる。 ・キュビナ等で基礎学力の向上の結果も現れている。ここがデータで確認できるのは大きい。
学校は、各教科の指導において言語活動を充実した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	A	・多くの授業で、グループやペアによる話し合いを取り入れている。 ・説明が多い授業にならないよう、日々の研鑽に努める。	S	・授業が説明だけに終わるのではなく、考えさせたり行動させたりしながら、言語活動を重視した授業が展開されている。 ・グループ協議やロイロノートの活用など、個々の表現力の育成を意識している授業を多く見ることができている。
学校は、学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	A	・概ね行っているが、教科間や教員間での差はある。今後は研修の時間を確保し、さらに充実させていく。	A	・個に応じた学習指導が行われているが、平準化が図られるように努力が必要である。 ・個性は尊重すべきだが、引き続き教科間や教師間で改善と充実を図り、偏りのない指導を目指してほしい。
学校は、英語（外国語・外国語活動）の授業を充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成（国際理解教育の推進）に努めている。	A	・ALTの先生と連携し、工夫した授業を展開している。 ・学力は身につけているが、コミュニケーション力が不足している。グローバル化に向けて英語科の授業以外での取組も検討していく。	A	・工夫されたテンポある英語の授業が実践されている。 ・グローバル化に向けた英語科授業以外での取り組みに期待している。

評価項目「豊かな心の育成」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつしたり、「です、ます」をつけるなど場に応じた言葉遣いを実践したりできるよう指導している。	A	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒ができており、言葉遣いもよい。ただし、個人差もみられる。 学年や学級での指導が徹底できていない。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 場面をわきまえた言葉遣いができる生徒が多くなっている。 教職員、生徒は来校時も挨拶ができています。「挨拶は人より先に自分から」が実践できるように指導してもらいたい。
学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さを努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部会を中心に組織的な指導を進めている。しかし、生徒の本質の変容に至っていないことが多い。ファシリテーターの育成、自治力を高める指導が求められる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめを始め、問題行動の早期把握、校則の見直しなど、生徒指導が着実に取り組まれている。 いじめは犯罪である。早期発見して、しない、させないを組織的に実施されている。
学校は、教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 概ねよい。 今後は特に「時間を守る」「机を守る」等の意識を高めていく。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートにみられるように、教職員が率先して手本となっている。

評価項目「健康・体力の向上・安全」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的な活動となるような働きかけができています。 昼休みの外遊びをより活性化させたい。 部活動については、適度な活動時間となるよう徹底していく。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備に利用制限がある中、計画的に実施されている。 限られたスペース、時間で結果を出せているのは、教職員と生徒の努力の結果である。
学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	A	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭との連携機会が増えた。 子供たちの中に「もったいない」という感覚が薄れている気がする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 調理員に感謝する機会をつくとよいのではないかな。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意見を取り上げ、「学校運営創造ラボ」で意見交換することができた。今後、地域・保護者・生徒を巻き込んで考える機会を積極的に増やしていく。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 地域の情報は常に学校へ届けている中、さらに生徒との意見交換会ができた。これまで弱かった切り口から学校運営の改善にとりかかったことは評価できる。 地域・保護者・生徒のあいさつ運動から始められるとよい。
学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な情報提供を今後も進めていく。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 新メールシステムの活用はとともよい。学校だよりを配信したり、様々な行事の案内を拝見できた。情報媒体を有効かつスピーディーに活用し、学校からの発信がよく行われている。 合唱祭のYouTube配信は保護者にとってありがたかった。 メールとは別に、従来通りに学校だよりを閲覧板で定期的に情報周知がなされている。
学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	A	<ul style="list-style-type: none"> 様々な制限のある中でもよくできている。 今後は学校応援団との連携が活性化するように、随時業務の見直しをしていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関や組織と連携されている。 地域が学校応援団として活動するにあたって、協働体としてどう参画していくかが課題と、地域として感じている。 声かけ運動など、各所では行っているが、工事中でもできること（ふれ協のあいさつ運動のようなもの）があってもよい。